

地質凡例

地質	時代	地質区分	土質・岩相区分	記号	記事
	完新世	人工堆積物	礫混り砂質土	r	現行施設造成時の盛土・埋土であり、礫混り砂質土を 主体とする。
	現世	崩積土	粘性土・ シルト質土	t	粘土質シルトを主とする旧耕作土であり、一部に有機 質シルトが確認される。 N値=3~9
第四紀			強風化 凝灰角礫岩	Т3	土砂化が顕著な強風化層で指圧にて容易に潰れ腕弱 である。砂質シルト状コアを主として原岩組織をわ ずかに残値する。 N値-2~25
	更 新 世	多良岳火山砕屑物	風化 凝灰角礫岩	T2	褐色の風化礫、青灰の硬質礫を混入する凝灰角礫岩、 指圧にて砂質上状に潰れ軟らかい。原岩組織を明瞭 に残留する。 № 16~37
			凝灰角礫岩	T1	短柱状の硬質な山岩線の制合が増す能灰角線岩でハ シマー打撃にて割れる程度で硬い、水平・水平・上10° 程度の割れ目がみとめられ、割れ目は地下水による 風化上を生成する。 N値=37~550

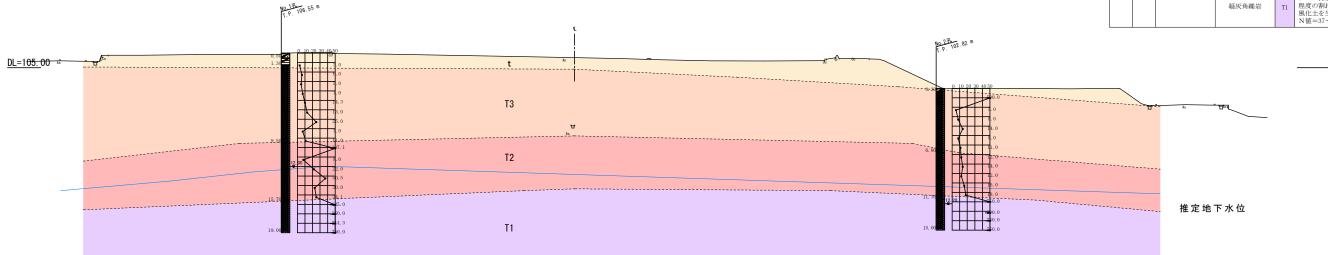
				2 -	- 央南	業	-第 1	5号
ェ	事	名	第2期	ごみ処	理施設	整備(こ伴う敷	放地造成基本設計業務委託
位		置			諫!	早市 往	富田町	番地内
図		種			稍) 断区](路線	k6)
年	月	日	令和	年	月	日	縮尺	H=1:500
部		長					11271	V=1:100
課		長					図面	13 枚の内
係		長					番	
設	計	者					号	第 2 号
		県	央り	具耳	有戊	ļ t	或 璟	遺境組合

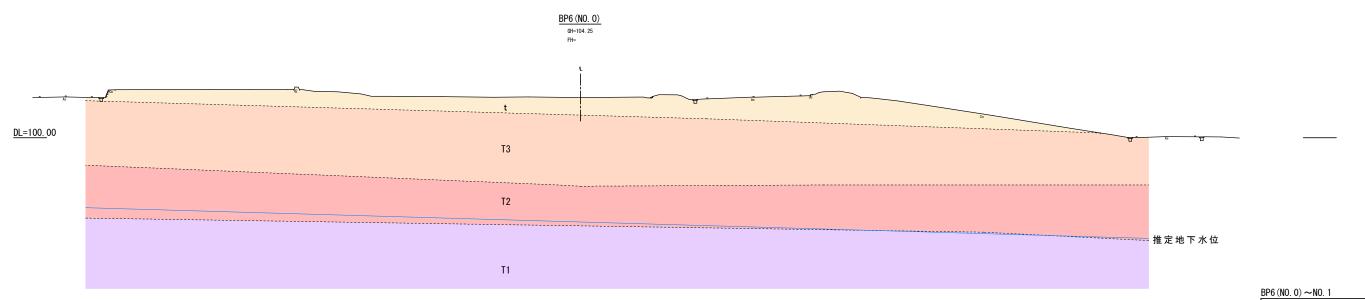
想定地質断面図(1)

地質凡例

坩	質時代	地質区分	土質・岩相区分	記号	記 事
	完新世	人工堆積物	礫混り砂質土	r	現行施設造成時の盛土・埋土であり、礫混り砂質土を 主体とする。
	現世	表土・崩積土	粘性土・ シルト質土	t	粘土質シルトを主とする旧耕作土であり、一部に有機質シルトが確認される。 N値=3 \sim 9
第 四 紀			強風化 凝灰角礫岩	Т3	土砂化が顕著な強風化層で指圧にて容易に潰れ脆弱である。砂質シルト状コアを主として原岩組織をわずかに残留する。 N値=2~25
	新世	多良岳火山砕屑物	風化 凝灰角礫岩	T2	褐色の風化碟、青灰の硬質碟を混入する凝灰角碟岩、 指圧にて砂質土状に潰れ軟らかい。原岩組織を明瞭 に残留する。 N値=6~37
			凝灰角礫岩	T1	短柱状の硬質安山岩礫の割合が増す凝灰角礫岩でハンマー打撃にて割れる程度で硬い。水平へ水平±10°程度の割れ目がみとめられ、割れ目は地下水による 風化土を生成する。 N値=37~>50

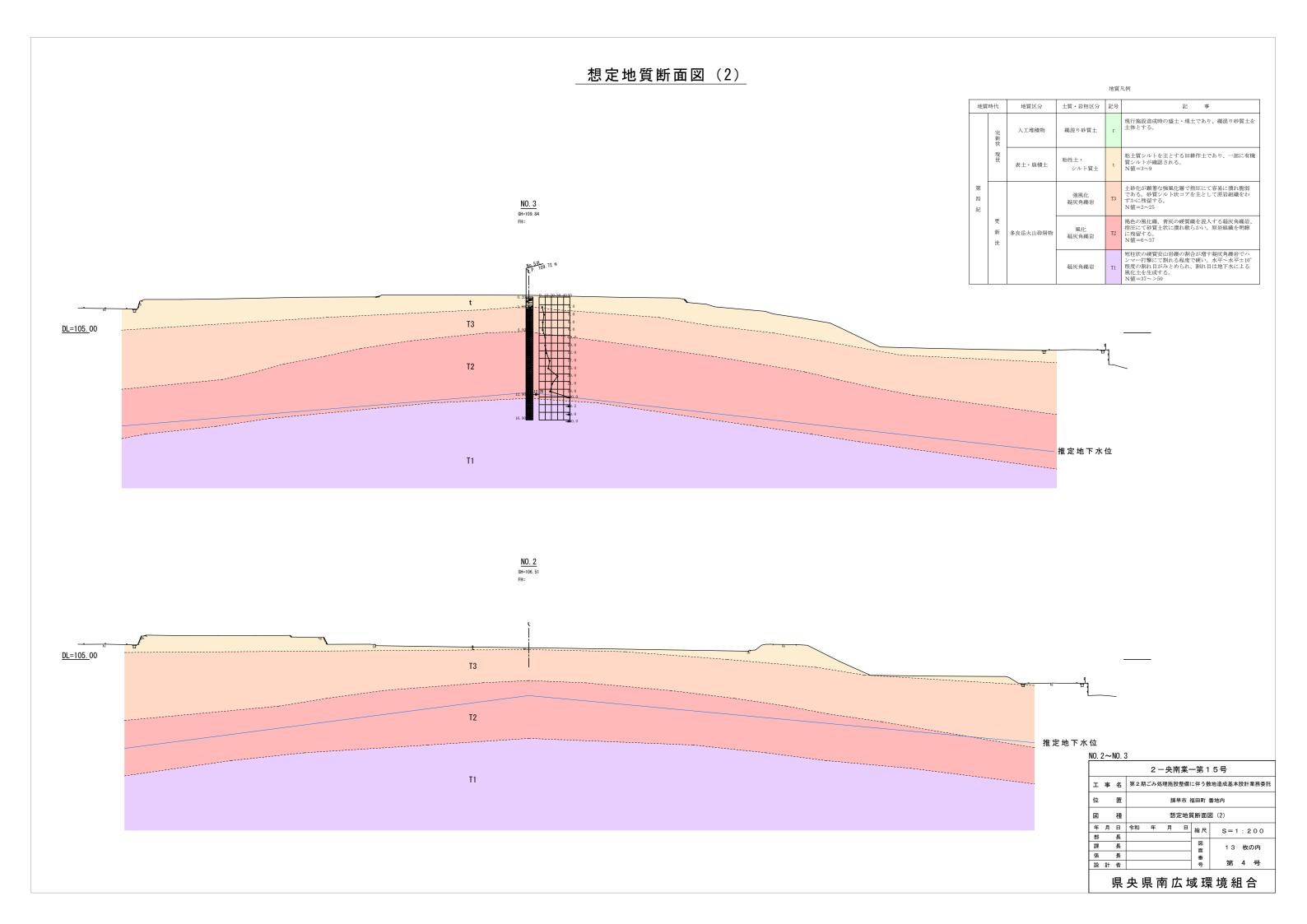


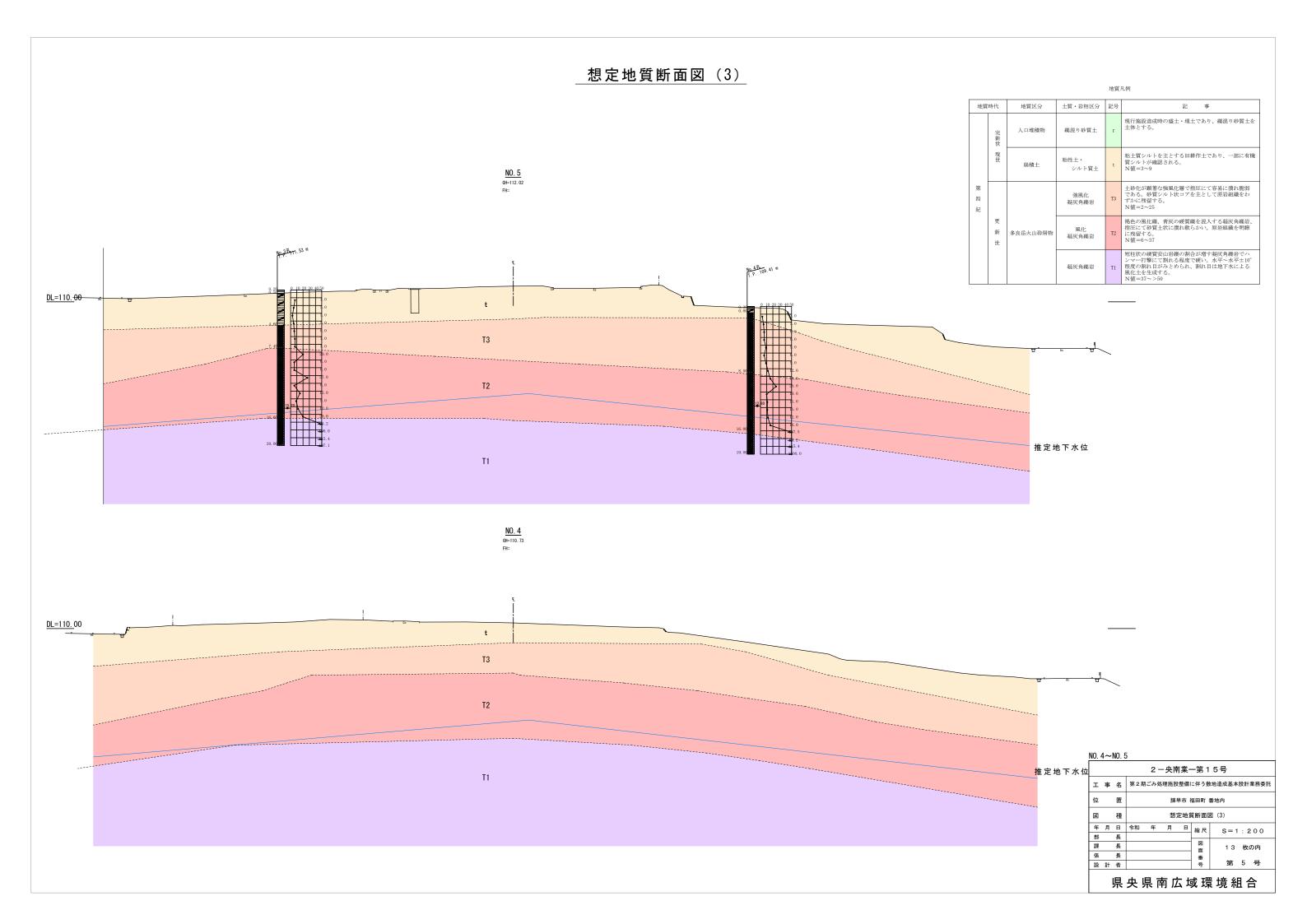


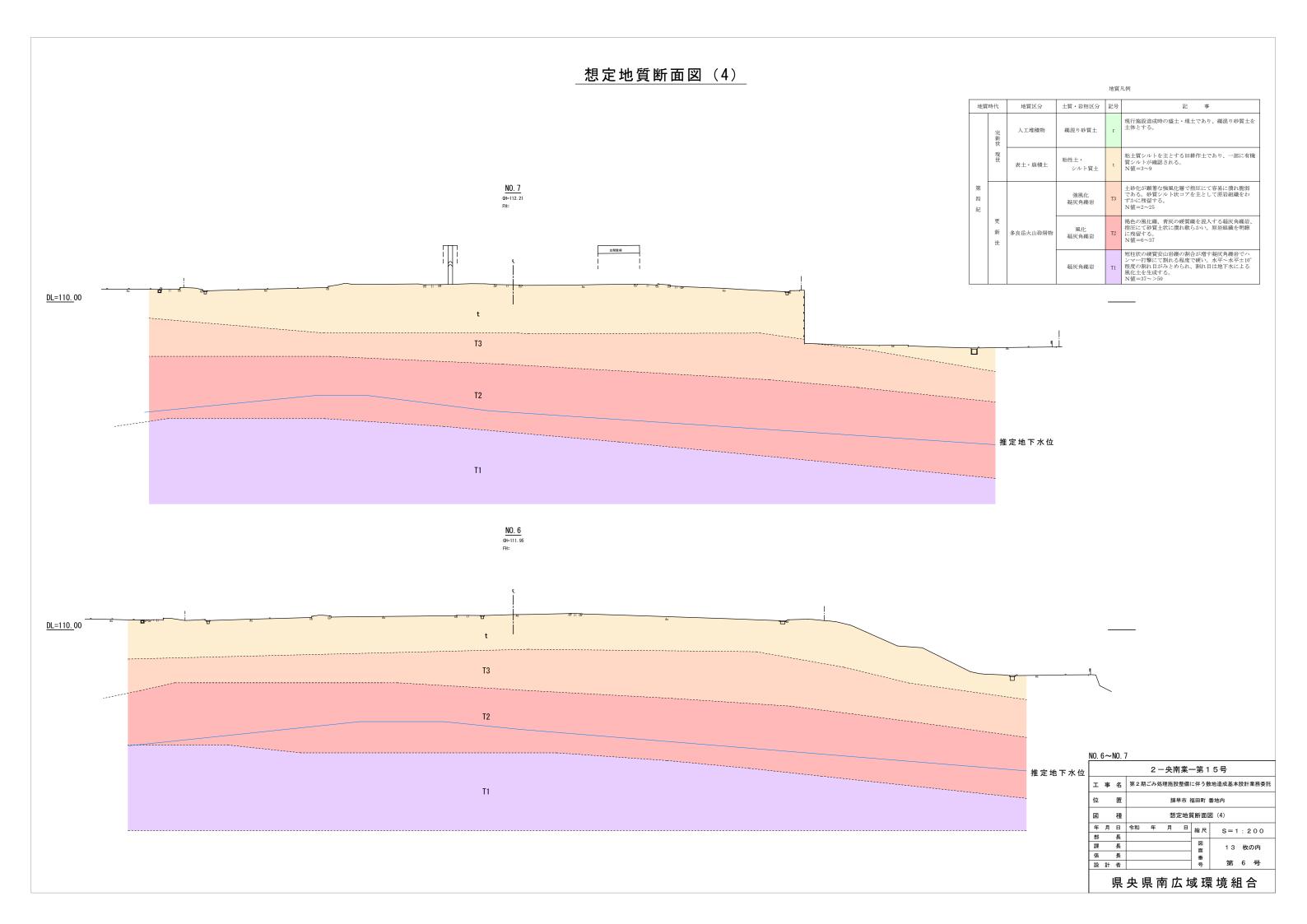


				2 -	- 央南	業-	-第 1	5号
ェ	事	名	第2期	月ごみ処	理施設	整備に	こ伴う敷	x 地造成基本設計業務委託
位		置			諫馬	市	富田町	番地内
図		種			想足	定地質	質断面[图 (1)
年	月	日	令和	年	月	日	縮尺	S=1:200
部		長						0 1.200
課		長					面面	13 枚の内
係		長					番	
設	計	者					号	第 3 号
		Ħ	нι	月 〒	<u> </u>	- 4:	北 15	巴培织人

県 央 県 南 広 域 環 境 組 合



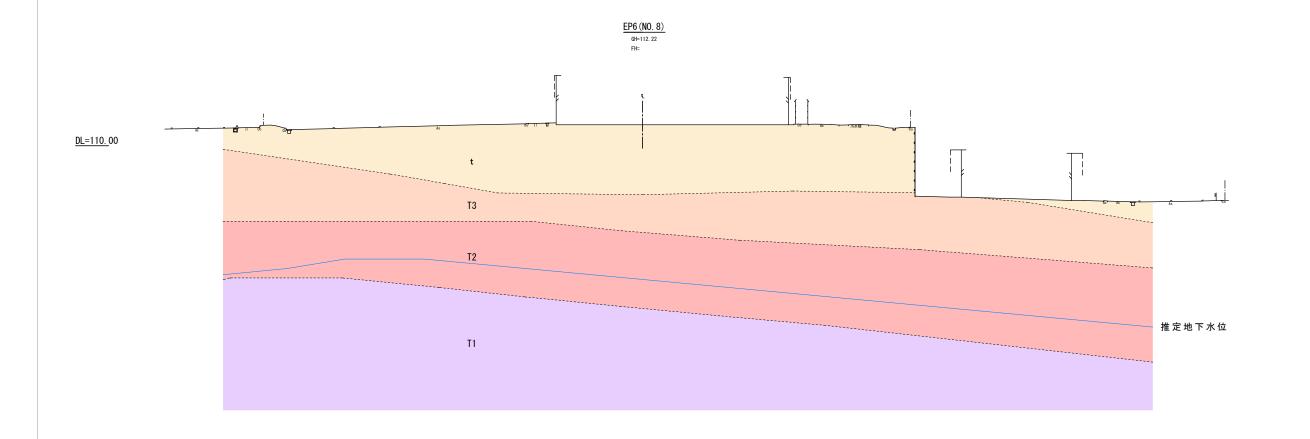




想定地質断面図(5)

地質凡例

地質	時代	地質区分	土質・岩相区分	記号	記 事
	完新世	人工堆積物	礫混り砂質土	r	現行施設造成時の盛土・埋土であり、礫混り砂質土を 主体とする。
	現世	表土・崩積土	粘性土・ シルト質土	t	粘土質シルトを主とする旧耕作土であり、一部に有機質シルトが確認される。 N 値 $=3\sim9$
第 四 紀			強風化 凝灰角礫岩	Т3	土砂化が顕著な強風化層で指圧にて容易に潰れ脆弱である。砂質シルト状コアを主として原岩組織をわずかに残倒する。 N値=2~25
	更新世	多良岳火山砕屑物	風化 凝灰角礫岩	T2	褐色の風化碟、青灰の硬質碟を混入する凝灰角礫岩、 指圧にて砂質土状に潰れ軟らかい。原岩組織を明瞭 に残留する。 N値=6~37
			凝灰角礫岩	T1	短柱状の硬質安山岩礫の割合が増す凝灰角礫岩でハンマー打撃にて割れる程度で硬い。水平〜水平±10°程度の割れ目がみとめられ、割れ目は地下水による風化土を生成する。 N値=37~>50



EP6 (NO. 8)

				2 -	中央南	業	-第 1	5号
ェ	事	名	第2期	プみ処	理施設	整備(こ伴う敷	地造成基本設計業務委託
位		置			諫!	早市 右	富田町	番地内
図		種			想	定地質	質断面[☑ (5)
年	月	日	令和	年	月	日	縮尺	S=1:200
部		長						0 11200
課		長					図面	13 枚の内
係		長					番	
設	at t	者					号	第 7 号

県 央 県 南 広 域 環 境 組 合

調 査 第2期ごみ処理施設整備に伴う地質調査業務委託

事業名または工事名

ボーリング名	No. 1孔	調査位置 諫早市福田町 地内				11	L 緯	32° 52′ 14.0000″
発 注 機 関	県央県南広域環境組合		調査期間	令和02年11月12日~	令和03年02月26日	東	更 経	130° 3′ 39. 0000″
調査業者名	橋口技術設計㈱ 電話(0957-26-0134)	主任技師	現 場 代 理 人	折田 定良	コア折田	定良	ボー グ責	
孔 口 標 高	T.P. 106.55 m 角 ^{180°} 上 方	北 0° 地	試 錐 機	吉田式 YS-01型				
総 削 孔 長	19.00 m	西東東 90°	エンジン	ヤンマー式 NFD10-N	ر ا	ポンプ 書	吉田式 G	P-3

標	標	深	現担	現	地盤	色	相	相		記		孔内	標	準		貫		入			試			験	試業	斗 採	取	室	削
尺	高	度	場土質名	場土	盤材料の		対	対				水位/					N	深	100 の打	Omm: 「撃回	数	撃ご		自沈時	深	試料	採取	内	孔
	[F]	及	位(模様	質	工学的公		密	稠				測定年品		N	<u>直</u>			度	0	100	5	の貫	の貫入	の貫入	度	番	方	試	月
(m)	(m)	(m)	128	名	分類	調		度		事		月日	0 10	20	30 4	10 50	値	(m)	100	200		入 量	量	量	(m)	号	法	験	日
1	106. 05 105. 25		1 to 1 to 1	レキ混り シルト質 砂 シルト質粘 土	礫混 り土 砂	褐・黄	rd1	rc1	表土、草根混り 一	指圧にて潰れる	完新世		•				3. 0	1. 15	1	1	1	3							
2																	6. 0	1. 45 2. 15	2	2	2	6 800							
3													•				5. 0	2. 45 3. 15 3. 45	2	1	2	5							11/6
4 5				強風化		明			経灰部は指圧にて	「容易につぶれ			•				7. 0	4. 15 4. 45 5. 15	3	2	_	7 800							11/2
6				強風化凝灰角礫	砂・砂質土	褐~明黄	rd2		凝灰部は指圧にてる。含水比がやや 硬質礫が混沌とす 入率は10%程度。	P高い。風化礫と トる。硬質礫の混							10.0	5. 45 6. 15	3	4		10 300							
7				皪岩													13. 0 25. 0	6. 45 7. 15		5	3	13 300 25							
8													•	•			7. 0	7. 45 8. 15	2	2	3	7							
9	97. 05	9. 5	0														11. 0	8. 45 9. 15 9. 45	3	4	4	11 300							
10											更新世						107. 1	10. 00	23	27 40	1	50 140	140						
11 12				風化							1 1	1/26 12.00	•				8. 0	11. 15 11. 45 12. 15	3	2		8 800							
13				化凝灰角礫岩	礫混 り土 砂	褐~暗褐	rd3		11~13m間は指月 軟らかい。ややき 混じり砂質シルト れる。	Eにて容易に潰れ 含水比が高く、礫 、状コアで採取さ							22. 0 37. 0	12. 45 13. 15	7	6		22 300 37							
14				岩										•			23. 0	13. 45 14. 15		7	10	23							11/2
15	90. 85	15. 7															25. 0	14. 45 15. 15	8	9	8	25 300							
16	20.00	10.7															125. 0	16. 45 16. 00	00	12 20			120						
17				凝灰角礫岩	軟岩	1)	rd5		ハンマー強打にて 22cmの硬質安山岩 する。18.7m~1 を含む。	で割れる。最大長 号を60~70%混入 9.0m間は亜円礫						->	250.0	17. 00 17. 06	60			60	60						
18	87. 55	10 0		岩		暗褐			2 1 20								214. 3	18. 00 18. 07 19. 00				70	70						11/2
19 20	01.00	19.0														->	750. 0	19. 02				20	20						11/2

調 査 第2期ごみ処理施設整備に伴う地質調査業務委託

事業名または工事名

才	÷ –	- IJ	ング	名	No. 2孔		調査位置	諫早市福田町 地口	Ī			北 緯 32° 5	2′ 15. 0000″
発	Ċ.	注	機	関	県央県南広域環境組合				調査期間 令和02年11	月12日~令和03年02月26	3日	東 経 130°	3' 42.0000"
調	1 2	査 美	美 者	名	橋口技術設計㈱	電話 (0957-26-0134)	主任技師		現 場 折田 定良	コア折田鑑定者	定良	ボーリン グ責任者	林田 良治
孔	_	П	標	高	T. P. 102. 82 m	角 180° 方 方	北 0° 東	地盤☆♀▶○□	試 錐 機 吉田式 YS	5-01型			
総	<i>X</i>	削	孔	長	15. 00 m	度	90° 南		エンジン ヤンマー式	NFD10-M	ポンプ	吉田式 GP-3	

標	標	深	現	現	地	色	色相	相	記		孔	標	準	<u> </u>	貫		入			試		験	試 #	4 採	取	室	削
尺	高	度	場土質名	場土	盤材料の工		対	対			内水位/測		N 1	直		N	深	の非	0mm2 丁撃回	撃ごし	回	沈時	深	試料	採取	内	孔
			(模 様	質	- 学的分		密	稠			定年月						度	5	5	200 5 7 入	貫	の貫入	度	番	方	試	月
(m)	(m)	(m)		名	類		周度		事 	完	日	0 10	0 20	30 4	0 50	値	(m)	100	200	300 量	量	量	(m)	号	法	験	目
1	102. 52	0.30		礫混り砂 質シルト	(: // 🛪	黄 rdl		砕石舗装、草根混り。礫はφ1cm程度の風化礫を少量混入する。	上						500.0	1.00			50 30							
2				強												5. 0	2. 15	1	2	2 5 300)						
3				風化凝灰角礫	お土・シルト	E	黄灭~ 赤曷	rc1	深度0.7~1.75m間は、青灰の硬質 安山岩礫からなる。礫混じりシルト質砂状コアで採取される。含水 比が高く、土砂化が著しい。指圧 にて容易に砂状に潰れ軟弱であ	•		•				8. 0	3. 15 3. 45 4. 15	2	3	3 8 300							11/30
5				樂岩		179	g		3.			•	<u>*</u>			14. 0 8. 0	4. 45 5. 15	2	3	5 14 300 3 8 300)						
6	96. 02	6. 80														11.0	5. 45 6. 15 6. 45	3	5	3 11 300							
F 7										更新世			•			12.0	7. 15 7. 45 8. 15	2	4	6 12 300)						
9				風化凝灰角礫岩	礫混り出砂	· 科	貴 曷 rd3		原岩組織をわずかに残留するが、 指圧にてつぶれ軟らかい。安山岩 風化礫および硬質礫の混入により				•			14. 0 12. 0	8. 45 9. 15	3	4	7 14 300 5 12)						
10					119	神	易		徐々に硬質増す。				•			16. 0	9. 45 10. 15 10. 45		5	7 16 300							
11	91. 12	11. 70									12/2 12. 20 \(\sum \)					18. 0 750. 0	11. 15 11. 45 12. 00	50	6	8 18 300 50) ,,						
13				凝灰角礫岩	軟岩	Ī	音 青 灭 rd5		最大長40cm程度の暗青灰を呈する 硬質安山岩を主体とする。凝灰部 は12.6~13.2m間にみられ、ハン マー打撃にて濁音を発し割れる。 安山岩礫が90%以上を占める。		-				->	300.0	12. 02 13. 15 13. 20	50		50 50	50						12/1
14	-	<i>-</i>		礫岩		- 1 - 3	黄曷		マー打撃にて濁音を発し割れる。安山岩礫が90%以上を占める。						->	750. 0	14. 00 14. 02	50 20		50 20	20						
15	87. 82	15. 00													->	750.0	15. 00 15. 02			50 20	20						12/2
: 10 : :																											

調 査 第2期ごみ処理施設整備に伴う地質調査業務委託

事業名または工事名

ボー	– У	ン:	グ名	No. 3	孔						調査	至位置	諫早市	福田	町	地内											7	Ł	緯 32	2° 52′	18.0000)"
発	注	機	関	県央	県南広域	環境	組合										調査期	間	令和02	年11月	12 ⊨	~令	和03年	02月	26日		月	Į	経 13	30° 3′	40.0000)"
調	査 業	巻 者	者 名	橋口	技術設計			電話	舌(095	57-26-01	34) 主任	£技師					現 代 理	場人	折田	定良		コ鑑	定定	が	田 5	官良			ドーリ ブ責任		出 良治	•
FL	П	標	高	T. P.	111. 53	m		角	180° 上	方	北西		地般	水	<平 → 0°	壮			吉田式	YS-	01型									l		
総	削	孔	長	20.00	0 m			度	F 0°▼	→ 90° 位	270° 180°	· 南 90°	盤勾配	鉛 直 90°	∕ °0	機	エンジ	ン	ヤンマ	一式	NFD	10-M			ポ	ン	プ言	左田 言	GP-	-3		
	T					T																										
標	標		深	現場	現	地盤	色	相	相			記			孔 内	標		準		貫	N	入 深	1	mmごと	式 打	50	験 自	武 :	料 採 試	取採	室	削
				土質	場	材料の		対	対						水位						11			撃回数	撃		沈	<i>I</i> /K			内	孔
尺	高		度	名(土	の工学		宓	稠						測定			N 値	<u> </u>			度	0]	00 20	— 1.	0)	時の	度	料	取	試	月
				模 様	質	子的分		144	17円						年月								5	5		1	貫入		番	方	₽₽V	
m)	(m)		(m)	_	名礫混じり	類		度 rd1,		妻士 曹	草根混り。	事			日	0	10 20) :	30 40	50	値	(m)	100 2	200 30	00 量		1 1	(m)	号	法	験	F
1	111.		0. 50		ジルト 砂利		灰	rd1		最大 ϕ 2	Rcm程度、	50~60%	混入。	7								1. 15										
				۰۰°° انتیزین ۱۳۰۰ انتیزین	礫											•					7. 0	1. 45	2	2 3	300	-						
2					礫混じり砂質シ	礫混 り土 砂		rd1		礫は最っ 風化礫を	大 φ 10 c m を20%程度	ı、硬質顔 混入する	および	完新世		•					5.0	2. 15	2	1 2	300	-						
3					質シル		赤褐									+					3.0	3. 15	1	1 1	300							
4	106.	93	4. 60	0000000	, h											+					5. 0	4. 15	2	1 2	2 5							
5			1.00		強属																6. 0	4. 45 5. 15	1	2 3	300							
6					強風化凝灰	砂·砂質土	1)	rd2		わずかり	こ岩組織列 角礫は風化	、全部の と	が著 全主体と									5. 45 6. 15			300							
7					灰角礫岩		赤褐			する。											7. 0	6. 45 7. 15	2	3 2	300							
8	104.	08	7. 45													•					7.0	7. 45 8. 15		2 3	300							
0																					20.0	8. 45		10 6	300							12
9																•					6.0	9. 15	2	2 2	300	-						12
10																					6.0	10. 15	2	2 2	300							
11					風		±											<u> </u>			27. 0	11. 15		13 4								
12					化凝灰角礫岩	礫混 り土 砂	\	rd3		岩組織を cmの 的に褐色	を明瞭に残 便質安山岩 色の酸化色 する。	き留し、 計礫を含む 色を呈し、	大長35 。全体 土砂化	更新							6. 0	11. 45 12. 15		2 2	300							
13					礫岩	H2	赤褐			が進行で	する。			世								12. 45 13. 15			300							
14																					15. 0	13. 45 14. 15		5 7	300							
															12/8	•	$\langle \hspace{0.1cm} \hspace{0.1cm} \rangle$				9.0	14. 45	2	3 4	300							
15															15. 20						12.0	15. 15	3	4 5	300	-						
16	94.	93	16. 60															_			20. 0	16. 15 16. 45	3	5 1	2 20 300							
17																					65. 2	17. 15	8	19 2	3 50 0 230	230						
18					凝灰角礫岩	軟岩	黄褐	rd4		 	85cmの短村 で採取され 円礫状コア	しる。19.4 7で酸化カ	4~19. 7: 3 准行す	n						->	100. 0	17. 38 18. 15	27	23	50	150						
19					八礫岩	771	褐			る。バル	ンマー打撃らばらに害	にで濁音 別れる	· を発								115. 4	18. 30		50 14	150	130						
20	91.	53	20.00																			19. 28 20. 00		30	130	140						12.
																				->	107. 1	20. 14	10	40	140	140						
21																																

調 査 第2期ごみ処理施設整備に伴う地質調査業務委託

事業名または工事名

調査目的及び調査対象 土地造成 構造物基礎

ボー	- リン	グ名	No. 45	FL_						調査位置	諫早市	福田町	 	地内												北		韋 32	° 52′	17. 0000"	
発	注	幾 関	県央!	県南広域	環境	組合									調査其	月間	令和0	2年11	月 12 日	一个令和	1034	年02	月 26	日		東	ń	圣 13	0° 3′	43. 0000"	
調	査 業	者名	橋口打	技術設計	-(株)		電話	舌(095	7-26-0134)	主任技師					現 代 理	場人	折田	定良		当鑑	定	ア者		定.	良			ーリン	1 **	田 良治	
孔	口 柞	標高	Т. Р.	109. 41	m			180° 上	方	北 0° 東	地盤	水平	√ 0°	壮士			吉田式	₹ YS-	-01型												
総	削	孔 長	19. 00) m			度	F 0°▼	0° 位 27	90° 南)° 勾	鉛直 90°	0°	機	エンシ	シン	ヤンマ	アー式	NFD	10-M				ポ、	ンフ	プ吉	田式	GP-:	3		
標	標	深	現	現	地	色	相	相		 記			 FL	標		- 準		貫		入			試			験	試 彩		取	 室	削
			場土質	場	<u>盤</u> 材料		対	対				;	为 水 位						N	深		Omm?		撃	50 回	自沈	深	試	採	内	孔
尺	高	度	名	土	のエ								/ 測			N 値	<u> </u>			度		丁撃回 100	200	<u>ح</u>	0	時の	度	料	取		
			模様	質	学的分		密	稠				4	定年月								5	5		の貫入	貫入	貫入	~	番	方	試	月
(m)	(m)	(m)	<u></u>	名 礫混じり	類礫混	調	度 rd1		礫は1cm以下	事の風化礫。割	長十、草根		日	0	10 2	0	30	40 50	値	(m)	100	200	300	量	量	量	(m)	号	法	験	日
1	108. 61			シルト シルト質 粘土	り出砂料	赤褐		rc1	混り。 0.7~0.8m間	引は安山岩硬質	質礫からな	新								1. 15											-
2					土・シルト				かく親指が	とひも状にな 容易に貫入す 	り、斬ら る。(以 ———			1					3. 0	1. 45 2. 15	1	1	1	3 300							
E																			5. 0	2. 45	1	1	3	5 300							
3														•					6.0	3. 15	3	2	1	6 300							-
F 4				強風化		黄灰	rd2		日上次「	和声の史山出	コナボ 庁庁で始 ナ			•					6.0	4. 15	1	2	3	6 300							-
5				強風化凝灰角礫岩	砂·砂 質土				取入性5cm まれに混入 シルト状コン わずかに岩	1程度の安山岩 する。風化礫 アで採取され 組織を残留す	で関係を 及び砂質 る。 ろが、十				•				9. 0	5. 15	3	3	3	9							-
6				岩					砂化が進行	する。	0 // L								6. 0	5. 45 6. 15	2	1	3	300							_
7																				6. 45 7. 15				300							-
8														L '					9. 0	7. 45 8. 15	2	3	4	300							12/8
	100. 91	8.50										_			1				12. 0	8. 45	4	4		12 300							-
F 9												更			•				16. 0	9. 15	5	5		16 300							-
10												更新世							25. 0	10. 15	13	5		25 300							-
11				風															10. 0	11. 15	3	3		10							-
12				風化凝灰角礫岩	礫混 り土	5	rd3		岩組織を残れている。	留するが、大 ト質砂状コア にて容易に砕	部分は礫 で採取さ	12	2/10		•				11. 0	11. 45 12. 15	3	3		300							_
13				角礫岩	砂	黄褐			れる。指圧	にて容易に砕	ける。	12	2.80 =						11. 0	12. 45 13. 15		4		300							_
14																				13. 45 14. 15	3	4		300							-
15															•				12. 0	14. 45 15. 15	3	4		300							
	02 41	16.00																	16. 0	15. 45	4	4		16 300							
16	50. 11	10.00																	187. 5	16. 15				50 80	80						-
17				凝灰角礫岩	軟岩	赤褐(最大径15 c t む。最大長5 取される。	mの硬質安山 50cmの長柱状 ハンマー打撃 る。亀裂面は	岩を含 コアで に て る に て る る で れ で る そ で る そ る に る に る る る る る る る る る る る る る る							->	65. 2	17. 15 17. 38	7	15	28	50 230	230						-
18				礫岩		褐			を発し割れ、呈する。	る。亀裂面は	酸化色を							-×	115. 4	18. 00	31	19 30			130						12/9
19	90. 41	19.00																->	1 500. (19. 00 19. 01				50 10	10						12/10
20																															-

調 査 第2期ごみ処理施設整備に伴う地質調査業務委託

事業名または工事名

ボーリ	ング:	名	No. 5孔		調査位置	諫早市福田町 地	为		北緯	32° 52′ 16. 0000″		
発 注	機	関	県央県南広域環境組合				調査期間	令和02年11月12日~	令和03年02月26	6日	東 経	130° 3′ 41.0000″
調査業	業 者	名	橋口技術設計㈱	電話 (0957-26-0134)	主任技師		現 場 代 理 人	折田 定良	コア折田鑑定者	定良		-リン
孔口	標	高	T.P. 109.72 m	角 180° 方	北 0° 東	地盤水平→0°月	1	吉田式 YS-01型				
総削	孔	長	16.00 m	度 0° 位 27	0° 南 90°	盤 知 配 数 数 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	エンジン	アンマー式 NFD10-M		ポンプ	吉田式	GP-3

標	標	深	現	現	地	色	相	相	記		孔	標	準	貫		入		試			験	試 *	1 採	取	室	削
尺	高	度	場土質名	場出土	盤材料の		対	対			内水位/		N. fets	N	深		100mr の打撃		撃ご	50 回 の		深	試料	採取	内	孔
	163	~	(模様	質	工学的分		密	稠			測定年月	-	N 値		度	2	0 100		_	貫入	の貫入	度	番	方	試	月
(m)	(m)	(m)	$\overline{}$	名 砂混り礫	類	調			事 一,砂利舗装。礫径最大3cm程度を40	%N	日	0 10	20 30	40 50 値	<u>(</u> (m)]	100 200	300		量	量	(m)	号	法	験	日
- 1	108. 22	1. 50		礫混じり砂質シルト	り土	暗	rd1		混入する。 含水比高く極めて軟らかい。礫に 最大2cm程度の安山岩硬質礫を 30%程度混入する。	二 完 計 新		•		5.	1. 1		1 2		5 300							
- 2				強風化凝	砂・砂		rd2		親指が容易に貫入し、軟らかい。 礫混じりシルト質砂状コアで採取	į (•		8.	2. 1	15	2 2	4	8 300							
4	105. 22	4. 50		化凝灰角礫岩	質土	赤褐			され、土砂化が進行する。			•		6.	3. 4	15	2 2 2 2	2	6 300 6							
- 5														10.	4. 4 5. 1 0 5. 4	15	4 3	3	300 10 300							12/2
- 6 - 7												•		10.	6. 4 7. 1	15	3 3		10 300							
- 8				風化凝	礫混	黄褐			原岩組織を残留する。礫混じりを 質シルト状コアを主とする。指圧 にて砕け、軟らかい。深度が増す	少三十		•	•	12.	7. 4 8. 1	15	5 6	6	12 300 17 300							
- 9 - 10				り土砂	暗褐	rd3		にて砕け、軟らかい。深度が増す につれ硬さを増す。	新世				15.	9. 1	15	5 5	5	15 300								
- 10														30.	0 10. 11.	45	6 6		30 300 21							12/3
- 12	96. 82	12 00									12/4 12. 70			18.	11. 12. 0	15 45	4 6	8	300 18 300							
- 13 - 14				凝		青			最大長20m程度の短柱状コアを主	<u>ا</u>	_			100	13.	15	21 29 50		150	150						
- 15				灰角礫岩	軟岩	灰〜黄灰	rd5		する。低角度の亀裂が発達し、ネ ずかに酸化が認められる。礫は安 山岩硬質礫および風化礫でハン マー打撃にて濁音を発し、容易に 割れない。					→ 88. → 50.	2 14. 15.	32 15	19 31 70 13 19		170	170 300						
- 16	93. 72	16.00								_				-> 150	15. 16.	45 15	50		300	100						12/4
- 17																										-